

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503700		
法人名	北海ケアサービス(株)		
事業所名	グループホーム 北海ハウス二番館 ききょう		
所在地	札幌市白石区北郷8条3丁目6-30		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan:true&JigrosyoCd=0170503700-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

格子戸風の門構えの外観はグループホームらしくない建物です。内装は和風の落ち着いた感じが、築10年になります。明るく清潔感を保つように努めています。共有空間は手作りのカレンダーや月々の飾り付けをし、季節の移り変わりを解り易くしています。観葉植物に水をあげたり、熱帯魚に赤ちゃんが産まれたと教えてくれたり、それぞれが思い思いに過ごせるような空間作りを心掛けています。のんびりと穏やかに過ごせるよう、レクリエーションは日課に組み込まず、それぞれのペースで過ごしています。だからと言って決して不活発ではなく、1Fフロアは6名も男性入居者がいますが、いつも賑やかに会話をしています。その輪の中には、いつもスタッフがいて、色々な目配りや配慮をしています。各フロアに調理専門のスタッフを配置する事により、不足がちな介護職員が専門職に取り組めるようにしています。食事は献立作成、買い物もスタッフがいき、手作りで提供しています。なるべく多くの食材を使用し、旬の物を取り入れ、見た目にも美味しい盛り付けを心掛けています。また、それぞれの病気や嚥下の状態に合わせて、できる限り工夫をしています。お昼時、夕方には食欲をそそるいい匂いが漂い、皆「お腹すいたね」とフロアに集まってきます。今までの生活環境と変わらない、家庭的な雰囲気大切に、認知症があっても安心して暮らせる、やすらぎの家を目指し、「笑顔で あかるく やさしく」を理念に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな国道に面した住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には公園や学校、スーパーなどがあり、利便性が高い。同一法人のグループホームも徒歩数分の位置にある。建物は外観、内装とも和風の落ち着いた造りで、格子状の装飾が壁や戸に施されている。広い共用空間はベランダにも面し、バーベキューのできる中庭もある。室内には品の良い絵画が多くあり、季節の装飾やカレンダーも飾っている。熱帯魚や雑誌等を配置して、家庭的で活動意欲の持てる環境となっている。個々の居室にも利用者が自由に身の周りのものを持ち込み、その人らしい居室となっている。職員が明るくやさしく利用者に接し、管理者を中心にお互いに協力や連携のしやすい関係を築いている。男性の利用者が比較的多いが、喫煙を認めたり、数名でビール園に行くなど、本人の嗜好が継続できるような柔軟に対応している。食事の面では、利用者の希望を聞きながら、彩りの良い美味しい食事が提供されている。また、使われている食器も色や材質、形など食材に合わせたものが使われている。外出の面では日常的な散歩や行事の他、個々の希望に合わせて近所への買い物や理容院通いを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 明るく やさしく」を経営理念にかかげ、家庭的な雰囲気を大切に、安心して暮らせるよう日々努力をしている	「笑顔で、明るく、やさしく」を主題とした理念を玄関やスタッフルームに掲示し、共有している。一方、理念の中に地域との関わりについての文言はなく、理念とは他にケア目標などの作成を検討している。	地域との関わりをより意識できるよう、利用者と地域とのつながりを重視するような文言を含むケア目標などの作成を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際、地域の方とお話をしたり、行事の際はボランティアの参加を依頼し、交流を図っている	利用者と共に地域の夏祭りに参加している。散歩の際に住民と挨拶を交わし、野菜の提供を受けることもある。歌や踊りのボランティアを受け入れており、今後は子供達との交流も行いたい意向を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、地域の方々に現状を知っていただいている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では現状を伝え、サービスの更なる向上に活かせる様、意見交換を行なっている	運営推進会議は年6回開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員などの参加を得ているが、家族の参加は得られていない。現況報告の他、防災や外部評価などのテーマで意見交換している。また議事録を家族に送付している。	会議に家族の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。また、報告事項以外に会議のテーマを計画的に設定し、会議案内で周知することも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方と連絡を取り合ったり、情報交換を行いながら、協力関係を築けるよう取り組んでいる	地域包括センター職員が運営推進会議に参加するほか、作成書類で不明な点は市や区の職員に相談している。市や区の管理者会議に参加し、行政担当者と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加した職員が社内研修を行い、全ての職員が禁止対象となる行為を理解してケアに取り組んでいる。ただ、ホームの立地上やむおえず玄関の施錠は行なっている	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを整備し、勉強会や外部研修報告会で禁止事項を確認している。前面道路の交通量が多いため玄関は日中も施錠しているが、外出希望があれば遮らず、同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加して学ぶ機会を持ち、小さな変化も見逃さないよう、職員間でも注意を払い、防止に努めている		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、関係者と話し合って活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時又改定等の際は、十分な説明を行い、理解・納得を得ながら行なっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を遠慮せずに伝えてもらえるよう、意見箱を設置し、声掛やお手紙で働きかけをしている。また、その都度運営に反映させるよう努めている。	来訪する家族は少なく、遠方の家族などは電話で連絡し、意見を聞いている。家族の意見を「介護・看護支援経過」に記載し、共有している。また各ユニットが毎月お便りを作成し家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞く体制を作りながら、必要な事は代表者に届くように努めている	2か月に1回、ユニット毎の会議が行われ、ケアプランの他、業務の見直しを行い、活発に意見交換している。管理者は随時、職員の相談を受けている。職員は広報やレクリエーション、消耗品管理などの係を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務の状況や努力を把握して、やりがいや向上心を保ちながら仕事ができるような環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や実績・力量を把握し、必要と思われる研修に参加すると共に、日常の業務の中でも職員を育てる取り組みをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は法人内の各事業所や他事業所と交流する機会を定期的に設けて、ネットワーク作りや勉強会、互いに現状の把握や困り事等の相談をしたりすることでサービスの質の向上への取り組みを行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人だけではなく、ご家族・前担当者の方々も含めて入居前後の情報交換や要望等の聞き取りを十分に行い、新しい環境に少しでも早く慣れて安心して生活できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞きながら、不安なくサービスが利用できる様に信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行い、現段階で必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めて職員・管理者間のコミュニケーションを密に図る努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に、入居者様と共に支え合えるように努力をしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちを大事にし、ご家族と協力しあって利用者を支えていく事に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、古くからの友人等との交流が途切れないように支援している	2名程度の利用者に友人、知人が来訪し、一緒に美術館や食事に出かける方もいる。電話を取り次いだり、友人への荷造りを支援している。馴染みの理容院に行く方が2名おり、近くの店にタバコやお菓子、消耗品の購入にも同行支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合い、支え合えるような支援に努め、1人1人が孤立しなうよう配慮をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所した妻への面会であったり、入居前まで付き合いのあった友人の面会を支援する等、これまでの関係性を大切にし、断ち切らない取組みを行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から汲み取るのはもちろんの事、スタッフ間の意見交換でも把握するよう努めている	2割ほどの利用者は言葉で思いや意向が表現でき、難しい方の場合も問いかけの反応や過去の経験から把握している。基本情報やアセスメントシートは作成から年月が経過している。	生活歴を含む基本情報の整備と、アセスメントシートの計画的な更新を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・ご家族から聞き取りし、さらに入居後も普段の会話や、スタッフ間の情報の共有で常に把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、温度板等に記録することで、それぞれの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にてサービス内容の確認をし、日々のケアにあたっている中で変化があれば都度話し合いを行なっている。必要に応じては、家族や関係者と相談して意見やアイデアを反映し、介護計画を作成している	介護計画を6か月に更新している。その間、2か月毎の会議で計画変更の必要性が話し合われている。更新時はモニタリングをもとに職員の意見を集約し、計画の更新を行っている。日々の記録を計画目標に沿って記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、支援経過、温度板等に個別に記入し、連絡ノートも利用しながら、職員間で情報共有を行い、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じたサービスが提供できるよう日々取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域でのお祭りに参加したり、地域の方々とのふれあいを楽しんだり、生活が少しでも豊かになるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医はいるが、本人・家族の希望があれば、今までの医療機関を継続できるように支援している	2カ所の協力医による往診があり、利用者はどちらかを受診している。内科以外の受診もほとんどを事業所で送迎している。受診内容は「介護・看護支援経過」に記載し、医師からの情報提供書でも把握できている。	

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と協働し、日々の健康管理を行い、適切な受診ができるよう日々支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と常に連絡を取り合い、相談できる関係作りをしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある場合は、なるべく早い段階で現在の生活維持の限界を本人・家族に説明し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を説明し署名捺印を得ている。現状は事業所の看取りは難しいため、重度化した場合は医療機関に移る場合がほとんどである。家族にその旨を説明し、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを確認し、全職員が実践できるよう努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から災害時・水害時にどう対応するか適切な話し合いをしている。避難訓練等に取り組んで地域とも協力体制を築いている	年6回程度、昼夜を想定した火災や水害の訓練を実施しており、消防や地域の協力を得ている。災害マニュアルも整備され、職員の救急救命訓練も計画的に進めている。災害時に必要な備蓄品の準備は今後の課題である。	災害時に必要と考えられる備蓄品について、リストを作成し、準備しておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、声掛けの仕方等をスタッフ間で話し合いながら、誇りやプライバシーを損なわない適切な対応ができるよう心掛けている	呼びかけは「さん」づけとし、申し送りは氏名を使わず、利用者順にして職員がわかるように行っている。個人記録類はスタッフコーナーの安全な場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や様子から汲み取る努力をし、選択肢を少なくする等、なるべく自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるよう、個々のペースを大切に、希望がある時はできるだけ沿えるように努力をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握・尊重し、そぐわない時はアドバイスをしながら、季節や場所にあった身だしなみやお洒落ができるように支援している。訪問理美容も活用している		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をし、個々の力量により食材の下処理やお膳拭き等と一緒にこなしている	彩りとバランスの良い食事が提供されている。利用者がもやしの髭とりや食器拭きなどを手伝い、職員も一緒に同じ食事をしている。季節ごとの行事食の提供や、外食の機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の好み、病気、嚥下状態等を理解して、食べやすい形状で提供し、栄養摂取や水分確保の支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの口腔状態に応じたケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけたり、様子を読み取ってトイレに誘導しながら自立にむけた支援を行っている	8割ほどの利用者は自力でトイレに行くことができ、声かけや介助が必要な方は介護記録でパターンを把握し、羞恥心に配慮しながら誘導している。日中夜間ともトイレでの排泄を支援し、夜間は1名のみ居室でオムツ交換等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人に対して飲食物の工夫や運動への働きかけを行い、便秘の予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望やその日の状態をみながら、楽しく入浴できるように支援している	毎日、午後の時間帯を中心に、各利用者が週2～3回程度の入浴をしている。拒否がある場合は日にちをずらしている。入浴剤を使用し、好みの湯加減を調整している。希望があれば同性介助に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、その時々状態をみながら休息を促したり、安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれが飲んでいる薬を理解して、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・好きなことを探りながら、日々の生活で出来る事は役割として行なっていただき、好きな事は、気分転換として行いながら楽しみや張りのある生活を送れるよう支援している		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく本人の希望に沿って外出できるように努めている。遠方の場合等のご家族にも協力を依頼し、実現できるように努めている	周辺を散歩したり、外気浴を行っている。行事で、水族館や百合が原公園、トンデンファームなどに行くほか、個別にカラオケやビール園などにも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じて支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の中継ぎをしたり、手紙の投函や荷物の発送等の支援を行っている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は清潔を保ち、特に長い時間を過ごすフロアには植物や熱帯魚、レク行きの写真、皆で作成した作品を掲示する等して、自然と会話が弾む居心地の良い空間作りに努めている	和を基調とした外装、内装で、落ち着いたきのある共用空間である。季節の装飾、観葉植物、利用者の作品、熱帯魚、書籍などが配置されている。エアコン、加湿器などで快適に保てるようにしている。キッチンやスタッフルームから共用空間全体を見渡すことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフが見守りながら、独りで過ごす時間や、利用者同士で話をしたり、楽しく自分らしく過ごせるような環境・居場所作りの工夫をしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家族と相談して、落ち着く物や好み、要望に合ったその人らしい居心地の良い空間になるよう工夫している	居室入口に表札をかけ、室内はテレビやたんす、洋服掛け、家族の写真、ぬいぐるみなど馴染みの家具や身の周りの品を自由に持ち込み、その人らしい居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	よく使用する場所には案内板をつけたり、居室には表札を下げる等して、迷わず自立した生活ができるような工夫をしている			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503700		
法人名	北海ケアサービス(株)		
事業所名	グループホーム 北海ハウス二番館 すみれ		
所在地	札幌市白石区北郷8条3丁目6-30		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0170503700-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

格子戸風の門構えの外観はグループホームらしくない建物です。内装は和風の落ち着いた感じがあり、築10年になります。明るく清潔感を保つように努めています。共有空間は手作りのカレンダーや月々の飾り付けをし、季節の移り変わりを解り易くしています。観葉植物に水をあげたり、熱帯魚に赤ちゃんが産まれたと教えてくれたり、それぞれが思い思いに過ごせるような空間作りを心掛けています。のんびりと穏やかに過ごせるよう、レクリエーションは日課に組み込まず、それぞれのペースで過ごしています。だからと言って決して不活発ではなく、1Fフロアは6名も男性入居者がいますが、いつも賑やかに会話をしています。その輪の中には、いつもスタッフがいて、色々な目配りや配慮をしています。各フロアに調理専門のスタッフを配置する事により、不足がちな介護職員が専門職に取り組めるようにしています。食事は献立作成、買い物もスタッフがいき、手作りで提供しています。なるべく多くの食材を使用し、旬の物を取り入れ、見た目にも美味しい盛り付けを心掛けています。また、それぞれの病気や嚥下の状態に合わせて、できる限り工夫をしています。お昼時、夕方には食欲をそそるいい匂いが漂い、皆「お腹すいたね」とフロアに集まってきます。今までの生活環境と変わらない、家庭的な雰囲気を大切に、認知症があっても安心して暮らせる、やすらぎの家を目指し、「笑顔で あかるく やさしく」を理念に取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年11月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 明るく やさしく」を理念に掲げ、家庭的な環境の下で、利用者が理念通りに暮らせるように支援している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加した際に、地域の方々と交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々に知ってもらうよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では近況や取り組みを報告し、更なるサービスの向上に活かせるよう意見交換をしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議で市町村担当者に協力して頂けるよう、日頃からの取り組みを積極的に伝えている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で話し合い身体拘束をしないケアを実践しているが、玄関の施錠は立地条件上行なっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員による社内研修を行い、虐待の再確認をし、見過ごされる事がない様に努めている		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、関係者と話し合って活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時又改定等の際は、十分な説明を行い、理解・納得を得ながら行なっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時にもケアへの要望や意見を聞くように心掛け、それらを運営に反映させるよう努めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞く体制を作りながら、必要な事は代表者に届くように努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務の状況や努力を把握して、やりがいや向上心を保ちながら仕事ができるような環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や実績・力量を把握し、必要と思われる研修に参加すると共に、日常の業務の中でも職員を育てる取り組みをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は法人内の各事業所や他事業所と交流する機会を定期的に設けて、ネットワーク作りや勉強会、互いに現状の把握や困り事等の相談をしたりする事でサービスの質の向上への取り組みを行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、前担当者等からも情報を収集し、不安な事や要望を把握して、安心を確保するための関係作りに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安にも耳を傾け、早い段階で信頼関係を築けるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	収集した情報の中から、今必要としているサービスを見極め、他のサービス利用も含めて対応するよう努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事はして頂き、共に支え合える関係を心掛けている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、家族と協力して共に支えていく関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの状態・性格を考慮し、食席の配置等の調整を行い、互いに支え合える環境作りを心掛けている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの現状を踏まえて、その方の思いや希望は何か、その人らしい暮らし方とは何かを常に把握しようと努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りを行い、入居後は日常の会話の中から把握するよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りで情報を共有し、それぞれの現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に全体でモニタリングを行い、必要に応じて各関係者とも話し合い、より良く暮らすための課題とケアのあり方について、現状に即した介護計画を作成するよう努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりに即したケアの記録用紙を作成し、入居者の情報の共有、介護計画の見直しに取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診・歯科往診の他に、定期的に検診を行い、適宜変化に対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、それぞれが安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に提携医療機関の往診を受けており、又個別の受診も行い、健康維持に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、気になる事がある時はまず職場内の看護職員に相談し、必要であればかかりつけ医院に伝えて、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療機関との情報交換や相談に努め、入院した際や退院後の生活についても安心して送る事が出来るよう病院関係者との関係作りを行なっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化しつつある場合は、早い段階で本人・家族と話し合い、此処での限界を説明しながら、地域の関係者と共に、その先も安心して過ごしていける環境を整えるような支援に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて職員間で話し合う機会を持ち、マニュアルの確認をする等して対応できるよう備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、地域の方々にも協力を依頼している		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重して、言葉掛けや対応に配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の思いや希望を引き出し、選択肢を狭める等して、自己決定ができるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを優先して対応し、それぞれが過ごしやすいように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ易い大きさにしたり、固さの調整、盛り付け等を工夫している。下膳やお盆拭き等、できる事は手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量の記録を行い、1日に必要な栄養や量が摂取できるよう、それぞれの状態や力、習慣を考慮して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアをおこなっている。また、定期的に歯科の往診も受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の状態を把握して、自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘をしない様、それぞれに応じた飲食物の工夫や運動の働きかけをしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に添った支援を行うよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や、その時々状況に応じて安眠や休息ができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気や飲んでいる薬の副作用を把握した上で服薬の支援をし、変化を見逃す事がないように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は生活の中での役割として行なっている。年間の行事以外にも日々の楽しみや気分転換ができるよう支援している		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って外出できるよう支援に努めている。普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、車で外出できるよう支援に努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、その都度対応・支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを支援したり、年賀状の印刷依頼・投函等を本人の希望で行なえるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に皆が長い時間過ごすフロアには、季節や月々の行事を感じる手作りの絵や飾りを作成し、居心地よく過ごせるような空間作りに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置等により工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、本人や家族と相談しながら、馴染みのものや好みの物を配置し、安心して居心地良く過ごせるように工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	同じ扉が並んでいる為迷わないよう、各居室には表札をつけ、よく利用する場所には案内板をつける等して安全で自立した生活ができるように工夫をしている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 北海ハウス二番館

作成日：平成 28年 12月 5日

市町村受理日：平成 28年 12月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人全体としての理念はあるが、地域との繋がりを重視した文言を含むものではない	理念とは別に、地域密着型の意義を踏まえた文言を含むケア目標を作成していく	認知症とは？なってしまったらどうなる？グループホームとはどんな所？等、私達が発信できる事をこちらから積極的に伝える事から地域との繋がりを広げ、ケア目標を作成していきたい	1年
2	4	ご家族が就労していたり、遠方だったり、遠縁の方がキーパーソンだったりする為か、普段の面会も少ないし、運営推進会議に家族の参加がほぼ無い	参加してもらえるのが一番良いが、それぞれの御家族の意見や意向を吸い上げて、運営やケアに活かせる様取り組んでいく	テーマを設定したり、案内文に簡単ではあるが、お手紙を添えたりして参加の促しを行なっているが、引き続き参加を呼びかけながら、御家族の意見を吸い上げていける様な努力、工夫をしていきたい	1年
3	23	2ヶ月に1度のモニタリングはフロア会議等を利用して全体で行なっているが、アセスメントシートは暫く更新していない	日常のケアだけではなく、アセスメントシートを計画的に更新して、1人1人の全体像を見直しながらケアの向上に取り組んでいく	リーダー、計画作成担当者が中心となり、アセスメントシートの更新を計画的に行なっていく	1年
4	35	火災や水害に対する避難訓練は定期的に行っているが、災害時に必要と考えられる備蓄品の準備はまだ行っていない	災害時に必要となる備蓄品についてリストを作成して準備しておく	18名分の備蓄品が収納できるスペースを確保し、徐々に準備をしていく	3ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。